

徳島県立近代美術館企画交流室長
森 芳功 の



美術の時間
エッセイ
的

美術をたのしむ、美術館をたのしむ

その90 「アートの日 勉強会」 続編

異なる雰囲気

先月号では、保育士さんと美術館職員が協同でつくる勉強会のことを話題にしましたが、その後、七月半ばまでの半月ほどの間に、二度保育士さんとの勉強会を開きました。続編のような形になりますが、今回はその勉強会のことをもう一度取り上げたいと思います。

「アートの日 勉強会」は前回も触れたように参加希望の先生が多く、追加で開催しました(六月三〇日)。メニューは、前回と同じ鑑賞と表現のつながりについてのお話と、亀井幸子企画交流室係長による実習(「えのぐであそぼう」)です。実習のテーマは「夏を描こう」。絵具と紙、さまざまな材料を用意し、「どれだけのしく、おもしろがつて活動できたかを大切」にして描いていきます。

私が興味深く感じたのは、同じ内容にもかかわらず、出来上がった作品がずいぶん違ったものになったことです。亀井さんも勉強会のコメントで語っていましたが、集まった人たちのつくる雰囲気によって、生み出される表現も変化することを実感しました。

一回目の勉強会のときは、元気づけの先生がいて、常識にしばられずイメージをふくらませようとする空気がありました。なかには、洗剤を泡立ててビールの形をつくってしまふ乗りのいい先生もいて、かなり活気のあるアトリエとなりました。

それに対して、二度目の勉強会は、静かに集中して取り組む空気が感じられました。出来上がった作品も、感覚よくまとまったものが多く、場の空気によってこれほど違うものなのかと驚きました。周りの人から、「額に入れて飾ったら、すてきですね」と声をかけられている先生もいました。

さまざまな可能性

場の空気、集まった人との関係によって違ったものが生み出されるのは、人間の社会であればどこにでもあることでしょう。美術の世界では、独自性が求められるのは確かなのですが、新しく時代を切り開いた作家たちであっても、考え方や感じ方の近い人たちが刺激しあつて制作しています。印象派やキュビズム(立体派)の巨匠たちも例外ではないでしょう。そのような作家たちと比べるわけにはいきませんが、

机を並べて制作する小学校や保育所の子どもの絵の響き合いと重ねてみるのも興味深いものです。「アートの日 勉強会」の二目目に大胆な表現をした保育士さんが、二日目も参加したら、また違った表現になっていたのかもしれない。

角度を変えて考えてみると、このことは人の持つ能力の豊かさのようにも思えます。場の空気を読む日本的気遣いも関わっているのでしょうが、それぞれの人のなかにさまざまな可能性があると、いついかなる時でもできるのです。「自分」というものは、二つの性格に特徴づけられるものでなく、いろいろな「自分」があるのはいまでもありません。普段は職場や家庭での役割をはたすため、自身のイメージをある程度限定させています。美術表現はその縛りを解いて、新たな自分を発見するきっかけを与えてくれる面もあるのです。

少し自信ができました

今回のワークショップが楽しかったのは、「上手、下手は関係ない」「今までやったことがないようなことにチャレンジする」といった促しにより、感覚を開放できたからなのでしょう。

周りの人から「額に入れて飾ったら、すてきですね」と褒められた作品は、切った色の紙を浮

かせて貼って花びらにし、茎はつやつやした素材感の絵具で描かれています。背景は、チョークの粉の手作り絵具によるザラザラした感じが魅力的でした。色彩の華やかさや素材感の豊富さが、絵に変化をつくっていたようです。多くの先生が、「このような体験を子供たちにもさせてあげたい」「保育所でやってみよう」と話してくれましたので、私も講師の亀井さんも大いに力づけられました。

たくさん笑顔

たくさんの方が笑顔になる場にいられることは、すばらしいことだと思います。同じような雰囲気は、七月二五日に閉館後の夜の展示室で開いた、佐那河内保育所の保育士さんを中心とする鑑賞の会でも感じま



展示室での研修会のひとこま（竹内班）

した。子どもの気持ちになって鑑賞を楽しむ研修会です。

最初は二つのグループに分かれて、シンプルに気に入った作品を探して感想を出し合う、「お気に入り」をさがそう「からはじめました。私と竹内利夫上席学芸員がそれぞれ二つのグループを担当しました。

「お気に入り」をさがそうは、感想を認め合う心地よさの感じられる方法であり、私も竹内学芸員も同じように試みたのですが、後で聞いてみると場の空気が全然違っていたようです。制作のときと同じように、鑑賞も出会った人の組み合わせでかなり雰囲気が異なるようで、竹内班の方が脱線を楽しみにぎやかだったそうです。もう一つのメニューは、以前紹介した「ヤッピーネ」という方法。美



文化の森サマーフェスティバル（8月23日）チラシ

と聞いたことはなかったとか、美術館に入ると「パネルの解説を理解しないといけない」といふんと出ていふんと出て

美術館に住むお化けが、夜の間に、絵のなかから盗んできた品物を作品に返しにいく設定で鑑賞を楽しみます。宝箱から、小瓶や扇子などの品物を選び、三人ほどの小グループで、あてもない、こうでもない話し合いながら、どの作品のなかから盗まれたのかを決めていきます。その過程でよく作品を観察し、想像を膨らませていくのですが、意見を交流するようすがとても楽しそうでした。

美術が苦手だった人が・

研修会の最後に、先生方の感想を聞くと、「今まで美術を苦手と感じていたけど、楽しい時間を過ごすことができ、また美術館に来てみたい」という意見がたくさんありました。「旅行が好きなので、遠くに行つたとき美術館に入ることもありますがいい

きました。

徳島の美術館だけの問題ではないのでしようが美術館に敷居の高さを感じている人はやはり多いのだと感じます。しかしこの日、美術に縁遠いと思っていた人を笑顔に変えたのも作品の力なのです。実は、保育所と美術館の連携が大きく進んでいるのは、美術に苦意思識を持つていた先生が保育所での「アートの日」や美術館見学で楽しさを知り、まわりの先生方に声をかけて下さっているからなのです。この日の研修会もそうですが、「美術館に来たことがないけど・・・」「苦手なだけ・・・」と思う先生がその楽しさを保育所や家庭に持ち帰り、さらに人の輪が広がっていいなと願っています。

美術館職員は、多くの人の笑顔に立ち会えますので、ほんとうにいい仕事なのだと思います。そして、美術に関わる人の生き活きとしたようすから元気をもらうことができるのが鑑賞支援の活動であり、職員が仕事を続ける力をもろう時間でもあるのだと感じています。

8月の催し

■展示室は、改修工事のため10月2日「金」まで閉室します。普

及事業などは開催しています。

次の展覧会は、リニューアルオープン後の10月3日「土」からを予定しています。

■文化の森サマーフェスティバル

23日「日」9時30分～美術館では、絵しりとり、彫刻と大きな比べ、折り紙やぬりえなど。ボランティアグループ「ビボラボ」による「ゴム鉄砲をつくってあそぼう」（10時～）もあります。

■開館25周年記念ワイギニア展

「プレワークショップ」

・「文化の森でくつろぐアート」22日

「土」講師：西山欣子（イラストレーター）場所：近代美術館アトリエ、対象：どなたでも（小学校3年生以下は保護者同伴）、往復乗費で申込、応募締切：10日「月」

・「ドルハウスに挑戦 家具コース」8月29日「土」と30日「日」の二日間、講師：藤坂恵 日本ドルハウス協会公認講師、場所：近代美術館アトリエ、対象：中学生以上、参加費：1200円、往復乗費で申込、応募締切：17日「月」

■開館25周年記念「人間表現を楽しむ25のとびら展」

「プレワークショップ」募集

・「人について考えるー中辻悦子ドローイングワークショップ」9月6日「日」、ギャラリ（階）、講師：中辻悦子（美術家）、対象：一般（小学校3年生以下は保護者同伴）、往復乗費で申込、応募締切：8月24日「月」、二人ひとりの描き方で人間像について考えてみます。

★くわしくは当館ホームページか、当館（TEL088-668-1088）まで。